

学校の教育目標 進んで学び 心豊かで 元気な児童の育成

評価段階 4・・・よくできている(頻繁に行っている) 3・・・だいたいできている(かなり行っている) 2・・・あまりできていない(時々行っている) 1・・・できていない(ほとんど行っていない)

3. 6・・・90%      3. 2・・・80%      3. 1以下・・・79%以下

重点目標	実践事項	具体的方策・手立て・内容	自己評価(平均)					分析・考察(○) 改善策(☆)	学校関係者評価委員会の意見	学校関係者評価
			児童	教師	保護者	平均	全体			
【進んで学力がぶ子】 確かな学力の定着	日常授業の改善	「かかわり」と「見届け」の指導	3.1	3.3	2.5	3.0	3. 4 (85%)	○学校では、週3日貸出日を設け、委員会児童を中心に貸し出しの啓発を行っている。しかし、読書内容や量に個人差があり、全体の読書量は減っている。また家庭との連携として、年間6回の「読書の日」として、家庭で読書に親しむ機会を設けている。 ☆今後も放送や全校集会等で、本の紹介や貸し出しの推奨を行っていきながら、児童が進んで読書に取り組めるように啓発していく。また、読書量が少ないという保護者の評価もあるので、夏休みや冬休みなどの長期休暇に「読書の日」の取組を追加し、家庭でゆっくりと本に親しむ時間を確保することを検討する。 ○本校は少人数規模できめ細やかな指導が可能である一方、集団としての練り合いや多様な意見で授業をすすめていくことが難しいといった実態がある。かがやきタイムでは、個で様々な問題に触れる時間を設け、今年度は1日15分(週に1時間)習熟の時間を確保することができている。 ☆学力差を埋めていくために、授業やかがやきタイムでの目標設定や、教師自身の授業づくりの見直しなど双方向からの取組が必要である。また、保護者にも、主に宿題の見届けの重要性について懇談・学級通信等で啓発の機会をつくり、今後もご協力いただきたい。また、学級懇談の際に、学力調査の個票を返却するが、保護者と学習に関して共有すべき事項は積極的に共有していくことも必要である。 ○市特別支援教育アドバイザーの黒木三鶴先生との連携により、各種検査やフィードバック、その後の校内就学相談委員会、市の就学支援委員会につなげることができている。 ○3・4年生のさいと学において、菜花園との交流活動を、コロナ禍の制限の中ではあったが、始めることができた。	○コロナ禍で学力を維持できたのは、先生方のご努力のおかげ。感謝。	3. 7 (93%)
		読解力を重点化した指導(読書を含む)	3.1	3.3	2.5	3.0				
		主体的・対話的で深い学びへの転換	3.3	3.0		3.2				
	基礎的・基本的学習内容の定着	少人数を生かした指導	3.6	3.7	3.3	3.5				
		かがやきタイムを活用した指導の徹底	3.6	3.7		3.6				
		3.6								
特別支援教育の充実	ケース会議の開催や外部関係機関等の積極的活動	3.4	3.7		3.6					
一貫教育の推進と外部との連携	地域素材や地域人材の活用	3.2	3.6		3.4					
【心豊かな子】 心の教育の充実	「心のコップを上向きに」の指導	姿勢を正す(立腰)	3.0	3.1		3.1	3. 4 (85%)	○「笑顔で生活」の項目は、児童及び保護者共に自己評価は高い傾向が見られた。その基盤が、いじめのない学校づくりの2項目「全教師が全児童に『かかわる』」、「迅速な実態把握(心タイム)」に関わるものであり、平均自己評価も高い。今後も、小規模校のよさを生かして、心豊かな児童を育てていく必要がある。 ○「プラスの言葉遣い」靴を並べる、整理整頓の2項目は、児童及び教師の自己評価は高めであったが、保護者のそれは低い傾向が見られた。学校生活と家庭生活の児童の実態が、異なるのではないかと考えられる。 ☆時と場を選ばず、身に付けるべき礼儀作法を保護者と教師が連携を図りながら児童に躰け、育てていく必要がある。 ○「素早く、静かな行動・移動」の項目は、児童及び教師共に自己評価は高い傾向が見られた。しかし、特別教室への移動や体育の更衣等で5分間の休み時間を超過することもあった。落ち着いた学習環境を保つためにも、教師による児童への声かけを続けていく必要がある。 ○「登下校指導の徹底(集団下校)」「交通安全及び防災教育の充実」の項目は、児童、教師及び保護者共に自己評価は高い傾向が見られた。計画的に実施できた避難訓練等の防災教育、定期的実施している登校班会及び毎日実施している集団下校等の交通安全指導。これらの実践の積み重ねが、高い自己評価の要因と考えられる。今後も、規範及び安全意識を高める実践内容を児童の実態に応じて吟味し、取組を継続していく必要がある。	○都会では親が職を失い、家庭が荒れたところがある中で、子ども達が落ち着いた生活を送れたのは幸いなこと。	3. 5 (88%)
		笑顔で生活	3.7	3.5	3.8	3.7				
		プラスの言葉遣い	3.5	3.2	2.9	3.2				
		3.6	3.4	3.2	3.4					
	靴を並べる、整理整頓	3.7	3.2	2.5	3.1					
	大きな声での発表と校歌斉唱	3.3	2.9		3.1					
「午前中5時間授業」への対応	素早く、静かな行動・移動	3.2	3.4		3.3					
いじめのない学校づくり	全教師が全児童に「かかわる」、 迅速な実態把握(心タイム)	3.4	3.5	3.6	3.5					
規範意識・安全意識の向上	登下校指導の徹底(集団登下校)	3.8	3.2	3.6	3.5					
	交通安全及び防災教育の充実	3.9			3.6					
【たくましい体の育成】 元気な子	基礎体力の向上	体力向上プランの推進	3.6	3.0	3.7	3.4	3. 5 (88%)	○「体力向上プランの推進」の項目については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、思ったような教育活動を展開することができなかったため、教師の評価が低くなっている。しかし、子ども達や保護者の評価は教師側の評価より高くなっている。これは、日ごろの体育学習や体力向上を目指した体育的活動、本校独自で進めている「ちよこっと運動」などが少しずつ効果的に働いているのではないかと推測できる。令和3年度の体力向上プランを作成しているため、次年度は、それにもとづいた体力向上を図っていくようにしていく。 ○「衛生的な生活習慣の徹底」と「定期的な安全点検の徹底」の項目については、全体平均より高い値がみられた。衛生的な生活習慣については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、衛生指導の場面も増え、全体的に予防意識が高まったものと考えられる。 ○「生活の中でできる運動の推奨、外遊びの励行」、「基本的な生活習慣の定着」、「食育指導の推進」の項目については全体平均と同じくらいである。長期休業前のちよこっと運動の紹介、健康委員会による外遊びの呼びかけなどを行い、児童の意識を高めてきた。 ☆食育指導について、平均値より職員の評価が低くなっている。全ての学年に食育の機会を設けられるように、計画的に実施していきたい。 ☆「歯みがき指導」について、6月に1・2年生は学級担任と養護教諭による授業、3・4年生は歯科医・歯科衛生士による授業、5・6年生は全国歯みがき大会に参加している。児童の評価に比べ、職員と保護者の評価が低いことから、日頃の歯みがきが十分にできていないと感じる。授業だけでなく、家庭と連携しながら日常指導も継続していきたい。	○休み時間が5分間になり、外で遊ぶ時間も減ったと思うが、体力が落ちずによかった。	3. 9 (98%)
		生活の中でできる運動の推奨(ちよこっと運動等) 外遊びの励行	3.6	3.4	3.4	3.5				
	健康教育の充実	基本的な生活習慣の定着(すくすくウィーク等) 早寝・早起き・朝ごはん・排便	3.5							
		3.9	3.5	3.5	3.5					
		3.3								
		衛生的な生活の徹底(マスクの着用、手洗い・うがい、手指の消毒、換気の習慣化)	3.7	3.4	3.6	3.6				
歯みがき指導	3.8	3.2	3.2	3.4						
食育指導の推進	3.5	3.3	3.6	3.5						
校内安全教育の充実	定期的な安全点検の徹底 校内安全指導の推進	3.8	3.6	3.6	3.7					
会家庭との連携・地域社会	家庭及び友愛園における家庭学習の見届け	家庭学習の習慣化と充実	3.6	3.3	3.2	3.4	3. 3 (83%)	○家庭学習の習慣化はできつつあるが、個人差がある。学力を向上させる上でも、内容を充実させる必要がある。引き続き、家庭及び友愛園へ「見届け」の協力をお願いする。 ○本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「みどりの少年団」の活動や友愛園との交流などが計画通りに実施できなかった。 ☆活動や交流の仕方を工夫していく。 ○学校便りやホームページで、子ども達の学習や活動の様子を、地域や家庭へ伝えることができた。	○開拓記念碑と開拓資料館の活用を。	3. 3 (83%)
	みどりの少年団による地域への貢献	花植えや清掃活動	2.7			2.7				
	石井記念友愛社との連携及び地域の福祉施設(菜花園)、保育園との計画的な交流	友愛社や菜花園、保育園等との連携	3.2	3.7		3.5				
	3.6	3.8	3.7	3.7						